

資料作成・公開に関する事業一覧

プロジェクト名	担当部門	頁
情報システムの整備・ホームページの運用(情02)	企画情報部	53
専門的アーカイヴの拡充(資料閲覧室運営)(情03)	企画情報部	55
無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化(無03)	無形文化遺産部	56
国際資料室の整備(セ08)	文化遺産国際協力センター	57
文化財保存修復国際情報データベース化に関する研究(セ07)	文化遺産国際協力センター	58
所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業(ニュースレター・概要・年報)(情05)	企画情報部	59
調査・研究成果の展示公開(黒田記念館)(美06)	美術部	60

情報システムの整備・ホームページの運用（情 02-06-1/5）

目 的

文化財関係の情報を収集し、積極的に発信するために、ネットワーク環境におけるセキュリティの強化及び高速化を進めるなど、情報基盤の整備・拡充を図る。さらに研究所の研究・業務などの広報活動の一環として、ホームページの運用を充実させる。

成 果

1. 情報システムの整備

(1) システム管理

所内におけるシステムの運用については、システム管理者がシステム全体の日常的な運用をはじめ、保守契約等の協議、メールアカウントの管理を行った。また LAN 委員会の協議を経て、中長期的な更新計画を策定した。とくに平成 18 年度は研究活動及び日常業務が遅滞なく円滑に遂行されるように、IP アドレスの確保や Web Mail 対応を図った。

(2) ネットワーク環境の整備

現在のユーザー環境を維持しつつ、より効率的運用ができるよう、ネットワーク環境の段階的な更新を進めた。平成 18 年度に行ったネットワーク環境の更新は下記の通りである。

- ・外部 DNS/Mail/NTP サーバー ns
- ・外部 DNS/Mail/NTP サーバー ns01
- ・内部 DNS/Mail/NTP サーバー dns01
- ・内部 DNS/Mail/NTP サーバー dns02
- ・メール用 InterScan dns03
- ・スイッチングハブ（各階 EPS 機械室およびシステム管理室）
- ・Reverse Proxy サーバー ISA
- ・DHCP サーバー dhcpcsv
- ・所内スケジューリング管理用サーバー
- ・管理端末
- ・HTP・FTP 用 InterScan proxy

(3) 情報セキュリティ

情報セキュリティに関するポリシーおよび運用手順の策定に向け、関連情報を収集した。

2. ホームページの運用

ホームページは研究所の広報活動の一翼を担うメディアであるとともに、文化財研究のデジタル・アーカイブとして情報発信の機能を果たす。例えば黒田記念館のページでは、日記・書簡・自筆文献・白馬会関係資料などの黒田清輝研究に必要なデータベースを公開するとともに、近年、黒田清輝作品に対して行った光学的調査・研究の成果の一部をデジタルコンテンツとして提供するなど、単なる黒田清輝作品の紹介にとどまらない、多角的な情報発信を行った。なお、各部・センターのページは自主的に更新されている。

平成 18 年度のホームページアクセス件数は、1,355,306 件に達し、前年度に比べ約 1.5 倍増加した。

ホームページアクセス件数の推移

・平成 18 年度 1,355,306 件 ・平成 17 年度 861,486 件 ・平成 16 年度 726,381 件

平成 18 年度月別のホームページアクセス件数

・4月 113,596 件 ・5月 120,377 件 ・6・7月* 244,090 件
 ・8月 87,130 件 ・9月 96,608 件 ・10月 114,035 件 ・11月 113,120 件
 ・12月 115,402 件 ・1月 118,085 件 ・2月 106,346 件 ・3月 126,517 件

*6月のアクセスログは7月分に含まれたため、2ヶ月分の表記とした。

平成 18 年度の更新履歴

日付	更新内容	部署
06.4.11	研究所概要更新	企画情報部
06.4.28	研究プロジェクト概要更新	企画情報部
06.5.12	非常勤職員募集のお知らせ	管理部
06.5.23	ネットワーク環境変更に伴うサーバ停止	企画情報部
06.5.25	「募集と催し物のお知らせ」コーナー新設	企画情報部
06.6.2	『概要』2005 年度版配布のご案内	企画情報部
06.6.22	黒田記念館：休館のお知らせ	黒田記念館
06.7.6	定期刊行物『年報』2005 年度版追加	企画情報部
06.7.18	資料閲覧室：夏期休室のお知らせ	企画情報部
06.8.8	TOBUNKENNEWS no.25 追加	企画情報部
06.8.16	非常勤職員募集のお知らせ	管理部
06.8.29	特集展示「黒田清輝の素描作品（前期）」	黒田記念館
06.9.26	美術部オープンレクチャー	美術部
06.10.4	第 19 回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会	修復技術部
06.10.18	「伴大納言絵巻」パネル展示	企画情報部
06.10.20	文化遺産国際協力コンソーシアムの公式サイト開設	東京文化財研究所
06.10.23	TOBUNKENNEWS no.26 追加	企画情報部
06.10.30	第 1 回無形民俗文化財研究協議会	無形文化遺産部
06.10.30	第 1 回公開学術講座	無形文化遺産部
06.11.29	資料閲覧室：年末年始休室のお知らせ	企画情報部
06.12.6	黒田記念館：冬季休館のお知らせ	黒田記念館
06.12.13	第 30 回 文化財の保存及び修復に関する国際研究集会	無形文化遺産部
07.1.10	特集展示「黒田清輝の素描作品（後期）」のお知らせ	黒田記念館
07.1.10	第 3 回文化財の防災計画に関する研究会	修復技術部
07.1.15	特別研究員募集のお知らせ	管理部
07.1.16	敦煌派遣研修員の募集のお知らせ	文化遺産国際協力センター
07.2.6	電気設備の定期点検に伴うサーバ停止のお知らせ	企画情報部
07.2.19	第 20 回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会	修復技術部
07.2.19	非常勤職員募集のお知らせ	管理部
07.2.22	TOBUNKENNEWS no.27 追加	企画情報部
07.2.27	清掃業務の入札	管理部
07.3.5	機械設備監視業務及び空調設備保守点検業務の入札	管理部
07.3.9	黒田記念館ホームページリニューアル	黒田記念館
07.3.20	シルクロード沿いの壁画保存に関する共同ワークショップ開催	文化遺産国際協力センター
07.3.29	研究員募集のお知らせ	管理部

研究組織

勝木言一郎、江村知子、中村明子（以上、企画情報部）、菊地昌弘、横山隆史（以上、管理部 LAN 委員）、綿田稔（美術部 LAN 委員）、俵木悟（無形文化財部 LAN 委員）、吉田直人（保存科学部 LAN 委員）、加藤雅人（修復技術部 LAN 委員）、二神葉子（文化遺産国際協力センター LAN 委員）

専門的アーカイブの拡充（資料閲覧室運営）（情 03-06-1/5）

目 的

企画情報部では（１）受入した文化財関連の図書などの文字資料や、作成したアナログ・デジタル画像資料の登録・管理、（２）閲覧室で月・水・金の週３回一般利用者へ所蔵資料を提供、（３）データベースや検索システムの構築・運用を通常業務としている。過去五カ年で定まった文化財関連資料の公開機関としての周知をふまえ、次期五カ年では提供する資料や情報の質に主眼を置き、より専門性の高い文化財関連資料や情報の収集・構築・公開の場として専門的アーカイブの拡充を図る。また、上記アーカイブのための資料収集及び作成には画像形成技術の開発が必要不可欠である。画像形成部門では、常に技術の進歩をみる写真機材及び設備の整備が必須であり、本プロジェクトでは継続的なこれらの更新を行うことによって、世界最先端の研究活動を支援することをも目的とする。

成 果

（１）資料閲覧室運営

従来どおり文化財に関する文字資料及び画像資料の収集、管理、公開、データベースの構築・運用を基本に、より充実した文化財に関するアーカイブの形成を試みた。昨年度試験運用を開始したデジタルアーカイブについて運用評価を行い、改良を加えた。また、アーカイブ拡充に不可欠なデジタルコンテンツ作りをすすめた。一方、その他文化財関連資料の公開機関として周知され利用頻度が高まるにつれ、明治大正期刊行の資料類や機器類の劣化が予想以上にすすんでいるため、サービスの低下を招かぬ形での保護対策として、資料については引き続きデジタル化をすすめ、また研究資料データベース検索システムの機器とソフトの更新を完了した。

図書受入数：和漢書 575 件、洋書 16 件、展覧会図録・報告書等 2,160 件、雑誌 3,731 件

受入総数：6,482 件

目録所在情報：目録所在情報の種類 33 種、目録所在情報作成件数 21,857 件

目録所在情報収録件数 622,183 件、目録所在情報公開件数 495,555 件

イントラネットで公開中の目録累計数 12 種

資料閲覧室の利用状況：公開日総数 139 日、利用者年間合計 926 人

平成 16 年度の利用者数との対比 5 人減

（２）画像情報室

従来に引き続き、他部・センターあるいは他機関との共同調査研究により文化財の画像資料の収集・作成を行った。また、黒田清輝遺族から寄贈された資料写真を美術部と共同で整理し、デジタル化する作業に着手した。画像資料の作成・整理については、第一期で完了した既存のモノクロ 4×5 フィルム写真原板台帳からの画像データベース（写真管理検索システム）の所内イントラネット公開を行い、所蔵画像名をウェブ上で公開する準備を進めた。

また、資料閲覧室での画像公開のためにすでに報告書を作成している「紅白梅図屏風」の高精細画像、蛍光 X 線分析データ、関連文献データをリンクした閲覧のためのデータを公開し、つづいて国宝「絹本着色十一面観音像」についても同様のコンテンツを公開用に作成した。この事業の一部は東京美術倶楽部からの寄付金による。

撮影件数：フルカラー画像 3,239 件、特殊画像 1,577 件

モノクロフィルム（4×5）登録総数：48,289 件

平成 18 年度写真管理検索システム登録件数：709 件（モノクロ 160 件、カラー 540 件）

企画情報部にて作成・更新中の目録データベース（33種）

- ・所蔵和漢書データベース（2005年度まで）
- ・所蔵洋書データベース
- ・売立目録データベース
- ・和雑誌誌名データベース
- ・所蔵中国雑誌誌名データベース
- ・所蔵和雑誌巻号データベース（2002年まで）
- ・所蔵和雑誌巻号データベース（2003年以降）
- ・所蔵中国雑誌巻号データベース
- ・所蔵地方公共団体刊行報告書データベース
- ・展覧会データベース（2002年まで）
- ・近現代作家名データベース
- ・写真原板データベース
- ・古美術文献目録データベース（明治～1965年）
- ・美術館博物館名データベース
- ・所蔵古美術展図録目次データベース（1989～2001年）
- ・所蔵近現代図録目次データベース（1948～1990年）
- ・古美術展覧会開催情報データベース（1944年以降）
- ・物故記事データベース
- ・美術懇話会・開所記念展覧会出品目録データベース
- ・受入和漢書データベース（2006年度分）
- ・所蔵簡易図書データベース
- ・所蔵美術館博物館収蔵目録データベース
- ・所蔵洋雑誌誌名データベース
- ・所蔵韓国雑誌誌名データベース
- ・所蔵洋雑誌巻号データベース（1999年まで）
- ・所蔵洋雑誌巻号データベース（2000年以降）
- ・所蔵韓国雑誌巻号データベース
- ・所蔵香取秀真資料関係データベース
- ・展覧会データベース（2003年以降）
- ・近現代展覧会開催情報データベース（1944年以降）
- ・キャビネット写真データベース
- ・近現代美術文献目録データベース（1959～1990年）
- ・東京文化財研究所年表データベース

研究組織

三浦定俊、山梨絵美子、勝木言一郎、皿井舞、江村知子、城野誠治、中村節子、中村明子、井上さやか、鳥光美佳子（以上、企画情報部）

無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（無 03-06-1/5）

目的

無形文化遺産部では、旧芸能部時代から、文献資料のほかに、音声・画像資料を積極的に収集してきた。これらの記録は極めて貴重であるが、記録メディアの進展に伴って、より好環境のもとに保存してゆく必要がある。このため無形文化遺産部では、画像・音声・映像資料の媒体転換を進めてきたが、将来的には、デジタル化された各種資料の集積によって、デジタル・アーカイブの開設を目指している。

概要

本年度は、これまでに蓄積されてきた資料に加え、平成17年度までに寄贈を受けたアナログテープの媒体転換を中心に実施した。とくに、新たに受入れが完了した資料に関しては、これまでの資料を補完する分野を重点的にデジタル化を進めた。同時に、デジタル化音声資料へのインデックス付与も行った。

研究組織

宮田繁幸、鎌倉恵子、高桑いづみ、飯島満、俵木悟、佐竹悦子、中司由起子（以上、無形文化遺産部）

国際資料室の整備（セ08-06-1/5）

本プロジェクトは、国際資料室に配置する外国の文化財や文化財保存修復事業に関する蔵書・資料の質及び量を充実させ、文化遺産国際協力センターでの関連の研究や事業に利用するとともに、国内外の関連分野の専門家が閲覧・利用できるようにする。同時に、資料のデータベース化を行い、利用者の便を図る。

1 資料の収集とデータベース化

目的

文化財自体やその保存修復、機関・組織・法令などの保護制度、文化財の公開と活用、危機管理などの分野の書籍や報告書、会議録、地図など、文化財保護に関する資料や、文化財保存修復国際協力を行ううえで参考となる関連諸学に関する資料を収集する。資料の収集は本プロジェクトだけでなく、他のプロジェクトとも連携して行い、特にプロジェクトの対象としたヨーロッパや西アジア諸国などの地域については、現地語による資料も含めて重点的に収集を行う。

また、利用者の利便性の向上及び資料の適切な管理のため、収集資料のデータベース化を行う。

成果

今年度は1,070点（和漢書479点、洋書591点）の資料を収集し、データベース化した。また、データベースについては図書及び雑誌検索専用の画面を新たに作成し、国際資料室で公開した。さらに、現在よりも資料へのアクセスを容易にする分類項目について検討を行い、現在の「大陸 国 文化財の種類」という順序の分類から、「大陸 文化財の種類 国」という分類に改めるとともに、文化財の種類による分類も、より現状を反映したものに改めることとした。

2 『国際資料室蔵書目録』の作成

目的

今年度データベースに入力した図書および雑誌について、蔵書目録を作成する。

成果

2007（平成19）年3月に、今年度に国際資料室で受け入れてデータベース化した1,070点（和漢書479点、洋書591点）の資料、及び国際資料室で所蔵する雑誌340種類を掲載した『国際資料室蔵書目録』を発行した。

目録作成数 1件

・『国際資料室蔵書目録』



国際資料室の千原大五郎先生旧蔵資料：
修復中のボロブドゥール寺院のスライド

研究組織

二神葉子、青木繁夫、稲葉信子、岡田健、山内和也、朽津信明（以上、文化遺産国際協力センター）

文化財保存修復国際情報データベース化に関する研究（セ07-06-1/5）

世界各地の文化財及びその保存修復に関する情報を収集・整理し、調査研究に活用するとともに、関連分野の専門家に対して効果的に発信していくことを目的にデータベースを作成する。

また、文化遺産国際協力センターでこれまでに実施してきた事業の成果をデータベース化して公開する。

1 情報の収集とデータベース化

目 的

世界各地、特に現在センターで対象としている地域の遺跡を中心にデータベースを作成する。名称、種類、年代、所在地などの基礎的な属性情報のほか、保存修復履歴やその際の国際協力の有無といった付帯的な情報、さらに法令や保存管理計画などの関連の文献、写真や実測図、地図、衛星画像など総合的に情報を収集する。

成 果

本年度は、平成3年度から調査研究を実施しているタイ、カンボジアなど東南アジアの遺跡について、過去に撮影したスライドフィルム2600点余りなど、画像のデジタル化を行った。また、カンボジアのアンコール遺跡における保存管理計画やタイのスコータイ遺跡の衛星画像をはじめとした関連の文献を収集した。

さらに、平成13年度から収集を行っている世界各国の文化財保護に関連する法令について、最も多様な文化財を対象とする法律のひとつである日本の文化財保護法で用いられている分類を手がかりとして、各国の法令が対象とする文化財による分類を行い、データベース化を実施した。

2 情報の発信

目 的

文化財保存修復や国際協力事業に携わっている専門家を対象に、センターが行っている調査研究などの事業に関する成果を公開する。

成 果

出版物の目次をウェブサイトに掲載するとともに、ヨーロッパ諸国の文化財保護制度に関する報告書のうち「イタリアの文化財保護制度の現在」、「オランダ文化財保護制度調査報告」、および「文化財の調査研究及び保護に対するGISの利用」をPDF化し、一部をウェブサイトで公開した。



「文化財保護関連法令データベース」
文化遺産国際協力センターのウェブ
サイトで条文を公開している

研究組織

二神葉子、青木繁夫、稲葉信子、岡田健、山内和也、朽津信明（以上、文化遺産国際協力センター）

所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（情 05-06-1/5）

目 的

企画情報部では各部・センターの研究成果を外部へ発信するために、『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』を定期的に刊行し、かつホームページ上でも PDF ファイル形式で配信している。また所蔵資料の目録編纂事業は第 2 期中期計画の中で 2 冊の刊行を予定している。

成 果

1. 広報企画事業

(1) 『東京文化財研究所年報』

プロジェクト研究、科学研究費や受託研究による研究の成果、その他、さまざまな研究会・研修など、昨年度における研究所の活動すべてを網羅して報告した。編集に際しては編集委員会の協議を通じ、編集方針を検討した（2007 年 5 月 31 日発行、全 280 頁）。

(2) 『東京文化財研究所概要』

研究所の組織の紹介をはじめ、当該年度のプロジェクトや国際事業、国内事業、出版物などを視覚的にわかりやすく、日英 2 カ国語で紹介した。編集に際しては編集委員会の協議を通じ、編集方針を検討した。第 1 四半期に刊行された。

(3) 『東文研ニュース』

研究所の研究活動のうち速報性と公共性の高い記事、文化財研究などを一般向けに解説したコラム、そして刊行物の案内などを四半期ごとに伝えた。平成 18 年度のに刊行された 4 冊は下記の通りである。

No.25	2006 年 5 月 31 日発行	全 16 頁	記事 16 件	図版 23 件	コラム 1 件
No.26	2006 年 8 月 31 日発行	全 16 頁	記事 17 件	図版 30 件	コラム 1 件
No.27	2006 年 11 月 30 日発行	全 16 頁	記事 17 件	図版 27 件	コラム 2 件
No.28	2007 年 2 月 28 日発行	全 20 頁	記事 21 件	図版 32 件	コラム 2 件

(4) 広報誌の配布

『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』は文部科学省・文化庁各部署、国及び都道府県の美術館・博物館、そして文化財研究部門をもつ大学図書館に配布した。『東京文化財研究所概要』は黒田記念館や研究所で一般向けに配布を行った。とくに『東文研ニュース』は従来、研究所の資料閲覧室や黒田記念館で配布していたが、さらに大分県立歴史博物館、九州国立博物館、京都国立博物館、東京芸術大学美術館、東京国立博物館、奈良国立博物館でも一般向けに配布を進めた。

(5) パネル展示

プロジェクト研究「高精細デジタル画像の応用に関する調査研究」の一環として、出光美術館蔵『伴大納言絵巻』について同館と共同調査を行った。研究成果の一部を公表するため、パネルを製作し、2006 年 10 月 18 日より研究所 1 階エントランスホールにおいて展示した。

2. 所蔵目録の刊行

『東京文化財研究所蔵書目録 7 外国語雑誌（韓文・中文・欧文）編』の刊行に向け、データ 617 件の校正を行った。

研究組織

三浦定俊、勝木言一郎、山梨絵美子、皿井舞、江村知子、城野誠治、中村節子、中村明子、井上さやか、鳥光美佳子（以上、企画情報部）

調査・研究成果の展示公開（黒田記念館）（ 美 06-06-1/5）

黒田記念室は、当研究所の創設に深く関わった帝国美術院長子爵黒田清輝の功績を記念するために設けられた陳列室であり、黒田清輝の油彩画、素描、写生帖等を収蔵公開している。

創立当時、主として黒田家から寄贈されたものは、油彩画 125 点、素描 170 点、写生帖等であるが、その後黒田照子夫人、樺山愛輔、田中良氏等からの寄贈が加わった。収蔵品の主なものは、「湖畔」「智・感・情」（以上 2 作品は、国指定重要文化財）「花野」「赤髪の少女」「もるる日影」「温室花壇」などである。

2001（平成 13）年 1 月より、2 階部分の改修工事が行われ、従来の黒田記念室に加え、会議等に使用していた陳列室も展示室に改修、2 室がギャラリーとなり、黒田清輝の作品を約 50 点展示できるようになった。また、旧美術研究所所長室も、公開のスペースに改め、美術研究所時代の写真を展示し、パーソナルコンピューターを設置し、来館者にホームページを見ていただくコーナーとして活用するようにした。2002（平成 14）年 9 月からは、それまでの木曜日公開に加え土曜日も公開。平成 15 年度は 7 月から 9 月にかけて改修工事を行い、リフトやエレベーターの設置により施設のバリアフリー化をはかった。また同年度 10 月から記念館 1 階に黒田清輝作品の絵はがきや図録、額絵等、記念館のグッズを委託販売するコーナーを設けた。

今年度は記念館 2 階の一室を会場に、「特集展示 黒田清輝の素描作品」と題して、黒田記念館が所蔵する木炭素描 288 点から選りすぐり、前期、後期にわけて特集展示を行った（会期：2006 年 9 月 7 日～2007 年 3 月 31 日）。

一般公開（無料） 毎週木・土曜日 午後 1 時～4 時

特別公開 2006（平成 18）年 10 月 30 日～11 月 5 日

入場者数 20,975 人（2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日）

なお、黒田記念室のパンフレット（A4 サイズ、三つ折）を作成し、来館者に無料で配布した。

また 2007（平成 19）年 2 月 15 日から 3 月 17 日まで、来館者にアンケートを実施した。2,169 人の来館者に対して、578 人から回答を得た（来館者数の 26.6%）。回答は、「満足した」と及び「おおむね満足した」99.9%、「不満が残った」1 人（0%）その他であり、アンケート回答の 99%が満足感を得たことになる。



「特集展示 黒田清輝の素描作品」会場

・地方共催展・作品の貸与

黒田清輝の作品を多数所蔵している当研究所は、黒田清輝の功績を記念し、あわせて地方文化の振興に資するために、1977（昭和 52）年からの事業として「近代日本洋画の巨匠 黒田清輝」展を年 1 回地方において行ってきた。平成 18 年度は下記のように開催した。

会場：豊田市美術館

会期：2006（平成 18）年 7 月 15 日（土）～ 8 月 27 日（日）

主催：東京文化財研究所、豊田市美術館

開催日数：38 日、入場者：16,598 人

陳列点数：油彩・パステル画 85 点、素描 62 点、写生帖 17 冊、書簡 4 通、日記 5 冊、参考出品 2 点、記録写真 16 点（以上、黒田記念館所蔵作品） その他油彩画 1 点、書簡 1 通を特別出品した。

図録：A4 版変形、182 ページ

図録については、平成 15 年度に、出品数の増加に伴い、油彩と素描を編年的に交えた 4 部構成とし、図版もフルカラーにするなど従来のを大幅に改訂し、今年度も一部改訂の上、刊行した。

また会期中の 8 月 6 日（日）会場出口において来館者にアンケート調査を実施し、209 人から回答を得た。（入館者数 462 人に対して、回収率 45.2%）満足度として「良かった」、「普通」の回答が、98.5%をしめた。

本年度の所蔵作品の貸与は下記の通りであった（5 件 14 点貸与）

・「二世五姓田芳柳と近代洋画の系譜」展

会場：明治神宮文化館 宝物展示室 会期：2006 年 5 月 27 日～7 月 2 日

作品名：黒田清輝「《昔語り》の僧侶」（油彩画）同「明治天皇殯宮の図」（素描）以上 2 点

・「森鷗外と美術」展

会場：和歌山県立近代美術館・静岡県立美術館 会期：和歌山会場 2006 年 9 月 10 日～10 月 22 日、静岡会場 2006 年 11 月 7 日～12 月 17 日

作品名：黒田清輝「編物」（油彩画）同「昼寝」（油彩画）同「昔語り下絵（構図）」（油彩画）同「昔語り（舞妓）」（油彩画）同「智・感・情」（油彩画）以上 7 点

・「日本近代洋画への道」展

会場：松本市美術館 会期：2006 年 11 月 3 日～2007 年 1 月 8 日

作品名：黒田清輝「花野」（油彩画）同「裸体・男（半身）」（油彩画）以上 2 点

・「揺らぐ近代 日本画と洋画のはざまに」展

会場：東京国立近代美術館、京都国立近代美術館 会期：東京会場 2006 年 11 月 7 日～12 月 24 日、京都会場 2007 年 1 月 10 日～2007 年 2 月 25 日

作品名：黒田清輝「湖畔」（油彩画）以上 1 点

・「時代と美術の多面体」展

会場：神奈川県立近代美術館 葉山 会期：2007 年 1 月 13 日～3 月 25 日

作品名：黒田清輝「もるる日影」（油彩画）同「風景（富士遠望）」（油彩画）以上 2 点

研究組織

田中淳、塩谷純（以上、美術部）